

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100102		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム習志野奏の杜		
所在地	千葉県習志野市谷津7-12-45		
自己評価作成日	平成29年2月3日	評価結果市町村受理日	平成29年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に敬意を持って接し、一人一人のペースに合わせたケアの実践を行う。その人らしい、快適で楽しく過ごせる生活を支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな公園がありJR津田沼駅から徒歩5分とは思えない閑静な住宅街に立地し、日当たり良く広いリビングにベランダと前庭を配し入居者がゆったりと寛げるよう配慮するとともに相談室や仮眠室を備えるなど職員にも配慮した新築の3年目を迎えるホームである。「入居者の過去を探求し一緒に輝ける未来を創造する・日々反省、日々向上・一日一笑」とのホーム独自の理念を掲げ、入居者一人ひとりがその人らしく楽しく過ごせるよう一人ひとりのペースに合わせたケアを実践するよう取り組んでいる。新ホーム長の下、職員一人ひとりが介護計画作成に参画し共有し入居者の個別ケアにチームで取り組んでいくことが期待される。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体で理念を共有し、実践にむけて活動している。	法人の理念とホーム独自の理念を夕礼申し送り時に唱和し共有を図っている。特に日々の申し送りをきちんとすると同時にその日の良かったことを職員で話し合い、職員は日々反省日々向上し、入居者と共に一日一笑することを目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場を広げる努力をしている。	介護相談員や社会福祉協議会から紹介を受けた手品・バイオリン演奏やハンドネイルケア等のボランティアの方に来て頂いている。地域包括からの紹介でメモリーウオークなどの地域行事に参加した。	今後自治会の加入など地域との繋がりを課題としている。近隣の小中学校や保育園との交流を図る等地域交流を広げていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在不足しているので、今後力をいれて取り組みたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や、話し合いでの意見をサービスや今後の運営に活かしている。	地域包括職員、民生委員、介護相談員や家族などの参加を得て、運営推進会議開催の趣旨説明から始め、入居者状況、人事・活動・事故報告、法人の家族アンケート結果報告等を議題として開催している。	新しいホーム長の下、年間開催計画を事前に参加者に知らせたり、避難訓練等の行事に合わせる等議題を工夫し2ヶ月に一度定期的開催されることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更に連携の強化に努める。	地域包括支援センターの方には毎回運営推進会議に出席いただき、ホームの実情や取組をお知らせしている。介護相談員の受け入れも行っており、連携し協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対し理解し、身体拘束を行わないケアに現在、取り組んでいる。(研修の場や、定期的にホームでチェックを行っている)	法人の方針で3ヶ月に一度身体拘束ゼロに向けての研修を実施している。「虐待と不適切ケア・身体拘束」チェックシートで各ユニットの現状を各ユニットの職員が輪番制で記入し本社へ報告している。拘束をしないでどう転倒を防ぐかを職員で話し合ったり、言葉で気になる時はリーダーや職員間で注意し合うようにする等拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで虐待防止についての研修、チェックを行い注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	普段から、研修等制度について学ぶ機会を持ち職員全体でホームとして活用できる様、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明をきちんと行い、ご家族にも十分に理解をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等含め、外部者へ表せる機会を持って、運営に反映させている。	敬老会を兼ねた家族懇談会を初めホーム忘年会やお寿司パーティー等家族が参加する行事を多く実施している。また、毎日面会に来られる家族等、面会に来られる家族も多く、意見や要望を言ってくれたい機会が多い。入浴状況を知りたい等の意見や要望を職員間で共有し運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設け、より良い運営に向けて、常に話し合いの場を設けている。	管理者やユニットリーダーが現場で共にケアする中で聞いた職員からの要望や提案をユニット会議や全体会議で取り上げて運営に反映させるようにしている。職員の様子を見て個々に随時面談を行い愚痴も含めて意見や要望を聞くようにしている。職員が腰などを痛めないようボディメカニクスに基づくトランス技術の研修を現場で実施する等、職員の身体への負担も軽減できるよう介護技術のスキル向上に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備、やりがいを持てる職場となる様、個々のスタッフとの関わりを常に持って対応・努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として、研修の実施などスキルアップに取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を今後、増やして行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	本人との安心確保の為の関係を、常に努力している。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族への聞き取りを重視し、関係づくりに努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	必要としている支援を理解し、支援に努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	共に支えて行く関係づくりに努めている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	共に本人を支えて行く関係づくりに努めている。		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	不足している支援を今後行っていく。	<p>入居者のアルバムから馴染みの人や場所を見つけるようにしている。勤務先の友人や遠方からひ孫さんが訪ねて来る。友人が訪ねてきて一緒に買物に行く。家族と馴染みの美容院にヘアカラーに行く、本人の誕生日や孫の誕生日に外食をする、お墓参りや法事に行く、自宅で外泊をする等馴染みの関係を継続できる支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	職員の関わりを深め、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いやご本人の意向の把握に努めている。	入居前に自宅訪問し希望や思い・意向を把握しアセスメントしている。更に其の人に関わる周辺情報を聴取しフェイスシートに記録している。入居後は夫々の居室内で1対1でコーヒーやお茶を飲みながら、意向や願望などをゆっくり辛抱強く聴取し、ケアプラン作成のヒントに繋がる本人の言葉をそのまま個人記録に記入し、全員がこれを共有してケアプランに活かすようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を理解し、サービス記録・経過記録を確認しながら把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見を反映した介護計画を作成している。	職員がそれぞれ記入した個人記録などを元に、家族・医師・看護師・職員全員の意見を反映させた介護計画が作成されている。ケアプラン見直し時には短期目標のサービス内容の実施状況・達成度の評価をユニット会議で行っている。モニタリングは3カ月に1回行っている。家族へのお便り「習志野奏の杜通信」を居室担当者とケアマネージャー・ホーム長で作成し、暮らしの様子の報告と併せてケアプランに関する状況を毎月家族に報告するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やユニット会議等を通じ、職員で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療連携を行っている。	特殊診療科目を今迄通りのかかりつけ医で受診する入居者もあり家族帯同で受診しているが、中には職員同行による支援のケースもある。入居者の殆どは提携医療機関から月2回の往診を受けている。往診前に訪問看護師作成の情報記録書を前もって往診医へFAXしている。往診記録に受診内容を記入し、受診情報の共有を図っている。特に医師からの特記事項を赤で記入する事で職員全員に注意を促している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録や情報の伝達により、適切な看護を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を密にし、関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての出来る事を説明し、ご本人・ご家族と共有しながら支援を行っている。	入居契約時「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」で説明し入居者・家族の同意を得ている。終末期を迎えた時に、家族・医師・ホームで良く相談して今後の対応を検討することとしている。希望に応じ看取りをおこなう方針で、看取りに関する研修も実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から研修等を行い、連絡体制を整えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から、定期的に訓練を行い協力体制を築いている。	「防火用自主点検票」を使って火災発生の原因となる電源コンセント・プラグ・ガス器具とその周辺の状況など20数項目に亘るチェックを日常的に行っており、防災意識を高めている。また災害にそなえての備蓄(水・食料)もできている。	消防訓練・避難誘導訓練を定期的実施し、特に職員の少なくなる夜間想定訓練を重視し、訓練後は実施記録を取って反省と今後の課題について検討されるよう希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシー確保に努めている。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者の話を決して否定せず、受け容れることに努めている。共に暮らし続ける中で、つい出てしまいがちな馴れ馴れしい言葉遣いや、子供扱いするような働きかけ等は厳禁で、接遇研修の場や現場でお互いに注意し合っている。またトイレや入浴の際にはプライバシーを守るよう努めている。居室に入る際はノック・声掛けを励行している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様、支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそった支援を行う努力をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等の支援を心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの把握や、食を通しての楽しみを増やせる様支援している。	食前にはテレビの画面を見ながら嚥下体操を行っている。お手伝いのできる入居者は食器拭きなど行っている。食を楽しめるよう、鮭レクやおでん・お好み焼きなど好みのメニューや好きな食材を聞いて定期的に「お楽しみ食事」を企画・実施している。お好み焼きやおでんでは入居者各人に好きな具を聞いてこれを用意し、好きな具を好きなだけ自分で取って楽しんで頂いている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分確保の支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援を行っている。	トイレは背もたれ・可動式手すりがつらえてあり、安定した姿勢での排泄ができる。自立に向けた支援を行い、排泄パターンの把握に努め、適時トイレへいざなっている(健康管理表に入居者個々のパターンを記録している)。介助の必要な入居者にもタイムリーにお連れしている。失禁など失敗した場合は隣の入居者に知らないように対応したり、本人が落ち込まないように、慰めて元気づけている。必要に応じ夜間はポータブルトイレを使用する入居者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防と、対応に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意向を重視した支援を行っている。	脱着衣場は空調で温度調節ができていて、浴室は転倒防止の対策が充分とれた設備である。入浴は本人の意向を確認した上でやっている。「入浴表」にて入浴間隔の空いた入居者に声掛けをしてお風呂を楽しんで頂いている。湯上り後は医師処方外用剤の塗布や保湿剤の塗布の支援をしている。温かい清拭用タオルがHOT CABIIに用意されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じた睡眠・休息の支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、服薬の支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や生活歴から見た楽しみ等を理解し、常に支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への外出支援は行っている。現在、遠方への外出が減っている。	近隣の公園への散歩や、近くのコンビニへの買い物などで外出支援を行っている。花見やイチゴ狩り・船橋大神宮へのお参りやクリスマスイルミネーションの見学・ドライブによる遠出など季節に合わせて実施している。	入居者の筋力低下の防止、五感刺激による活性化などの為にも日常的な散歩等の外出機会を増やせるよう、ホーム全体で工夫されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現在は金銭の所持は行っていない。お金を使える支援は、検討したい。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	ご本人の意向に沿った支援を行っている。		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人が暮らしやすい環境を、支援する様、努めている。	広めのリビングはゆったりと寛げる。3脚のテーブルを適度に配し、ソファ・観葉植物も程よい間隔で置かれている。テレビの傍には金魚が飼われている。管理者が特に留意している明るさ・適度の湿度・転倒しない為の動線確保の支援が実感できる。ちぎり絵による大型の作品や入居者による習字や貼り絵・塗り絵を適度に貼付している。ベランダにはベンチが設えられていてお茶や日光浴ができる。ボランティアによるハワイアンコンサート・マジックショー等は此処でおこなわれ、入居者に喜ばれている。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	テーブルや椅子の配置等、共用空間の工夫を常に職員全体で考えて支援している。		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人の意向を伺いながら、支援を行っている。	空調・照明・クローゼット以外の家具等は入居者の持ち込みとなっている。家族や居室担当者話し合いながら、入居者が不安を感じたりしないよう、今迄使い慣れた食器類・整理ダンス・冷蔵庫・アルバム・カーテン・加湿器・時計・絵画等持ち込んでいるため、居室それぞれに特徴がでている。居室担当者が入居者の一番の理解者となって、配置換えや転倒しないための動線確保にも携わっている。寝具干しや掃除は職員が輪番で支援している。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	安全かつ、自立した生活が送れる様、支援に努めている。		